

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195003108		
法人名	一般社団法人 はな		
事業所名	グループホーム はな		
所在地	北見市桜町6丁目2-1		
自己評価作成日	令和3年3月1日	評価結果市町村受理日	令和3年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護保険法令に従い、要介護者で認知症疾患のあるご入居者に対し、温かく明るい家庭的な環境の中で、認知症の進行を穏やかにし、精神的に安定した心安らかな生活を送れるよう支援することを目的としています。また、ご入居者の幸せを願い十分な気配りで共同生活の円滑化を図り、個人個人にあった自立生活を維持・継続できる場としクオリティ・オブ・ライフを確保するよう、“自由で 楽しく 安心”の理念のもと、理解と愛情のある認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護サービスの提供に努めます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0195003108-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年3月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一般社団法人「グループホームはな」は、北見市桜町の幹線道路に近い住宅地に位置している2階建て2ユニットの事業所となっています。近隣には商業施設があり、利便性に富んだ場所ですが、静かな環境は保たれています。敷地内には、同法人経営のデイサービス、サービス付き高齢者住宅があり、昨年グループホーム前に建設されたログハウスは多目的ホールとして地域にも開放され、地域包括支援センター主催の高齢者サロン等に活用されています。今年度はコロナ禍の為行われていませんが、専門学校生の実習や中学校の福祉学習、高校生のボランティア活動の受け入れを行い地域に貢献し開かれた事業所となっています。平成29年法人変更が有りましたが、それ以前からの理念“自由で楽しく 安心”は、法人代表が思い描くグループホーム像を端的な言葉で表して作成され、管理者、職員はその思いを受け止め、利用者が安心して自分らしい暮らしが出来る様な支援に取り組んでいます。家族とは、一年に一度家族交流会を開催し、又、クリスマス、誕生会等の行事に参加を促す声を掛け、利用者と一緒に時を過ごし、利用者や家族の関係が希薄にならない様に配慮すると共に、職員とも、何でも言って貰える関係を築いています。毎月のミーティング時に内部研修を行い職員育成に努め、資格取得にもバックアップ体制が取られています。昨年よりスリランカの技能実習生を迎えており、他の職員に良い刺激と成って相乗効果が生まれています。スペースが充分に取られて日当たりの良いリビングでは利用者が思い思いにのんびり過ごしている様子が伺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“自由で 楽しく 安心”の理念を共有し実践につなげるよう取り組んでいる。	法人変更以前からの親しみのある理念を玄関フロアの目に付く所に掲示しています。管理者、職員は理念に込められた思いを共有し、実践に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているが、現状としては会に参加することができていない。	町内会に加入し、家族交流会に招待しています。町内会役員に加え隣の町内会とも災害の協力が得られています。専門学校生の実習の受け入れや中学校の福祉学習への協力、高校生のボランティアの受け入れを行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や研修に参加していただけるよう町内会長への情報提供を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・民生委員・包括支援センター職員・知見を有する当法人事業所職員・利用者家族等に参加いただき、会の報告を職員に行っている。	利用者家族、町内会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、法人デイサービス責任者に声を掛け開催していましたが今年度はコロナ禍の為書面開催となっています。案内を郵送後電話で意見を求め双方向の書面会議とし、議事録は参加者、全家族に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは状況に応じて連絡を取り合う関係が築けている。	行政とは情報交換等、連携に努め運営に反映させています。事業所前庭にあるログハウスを開放し、地域包括支援センター主催の高齢者サロンが開催されています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じ身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の指針を作成し、定期的に身体拘束廃止委員会を開催しています。会議内で研修を実施し、マニュアルの確認や事例研修を行い身体拘束における弊害を職員間で共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外研修にて虐待防止について学び防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会を持ち、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時点から、契約・重要事項説明を行い、入居時に再説明し、不安・疑問を利用者に関わる方々で話し合っていたり、理解・納得していただけるまで説明を行った上で締結・解約・改定している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話対応を通して、様々な話を行い対応を行っている。	家族交流会や面会時に家族の意向や要望を聞く機会としています。事業所便りを2～3カ月毎に発行し日々の様子を伝えると共にコロナ禍の現在は電話での報告を増やし家族の不安に配慮しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・カンファレンス等で意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者はミーティング時やユニットカンファレンス時、日常業務時に職員の意向や提案を把握し、運営に反映させています。毎月ミーティング時に研修を計画立てて実施し、資格取得のバックアップ体制を整え、職員のスキルアップに繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各保険の加入、処遇改善加算の申請を行っており、職員の状況に応じて条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらスキルを磨くよう勧め、可能な限り受講できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークづくりや勉強会、相互訪問などの活動を通じてサービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初対面で緊張されたり身構えられることが多いが、ご本人の性格に添い、思いを引き出せるような対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始まで足を運んでいただいたり、電話等にて不安なことや要望等に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の意向を確認しながら、その方に添ったサービス利用を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の性格や生活スタイルに添い、できる事を一緒に行っていたりすることで生活に慣れ、本人らしい生活を送れるよう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話・手紙にて生活状況をお伝えすることで家族との関係を築くよう取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊・面会を通して関係が途切れないよう支援に努めている。	コロナ禍以前には友人や知人の訪問があったり、家族の協力を得て行きつけの美容室へ出掛けています。趣味の編み物を楽しむ等、利用者のこれまでの関わりや習慣を大切にされた支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	手作業や運動・おやつの時間等を通し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了しても、施設に来ていただき話をしたり、関係性を大切に、断ち切らないような関わりを利用者中から行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努め、困難な場合は本人本位に検討し、職員間でも共有している。	管理者、職員は、利用者との日々の関わりの中での会話や様子から利用者の暮らし方の希望や要望を把握し、職員間で共有して実現に向けて取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・関係機関との連携により情報を集め、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方により、心身状態や残存機能・能力等の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・関係者・職員等と話し合い、現状に即した介護計画作成に努めている。	利用者、家族の参加を得てサービス担当者会議を開催して意向を把握し、計画作成者やユニットリーダーのモニタリング、職員参加のカンファレンスを参考に現状に即した介護計画を作成し、定期的に見直しを図っています。	介護計画に沿った支援を行うには職員が利用者の介護計画を把握すると共に介護計画の実施状況が分かる工夫をする中で、モニタリング、介護計画作成に活用して行く事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活支援経過記録を通じ、職員間で情報共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して柔軟な支援サービスの多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長・民生委員・包括支援センター職員・知見を有する当法人事業所職員・利用者家族等に協力を得て支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診や緊急時の受診等の支援を行っている。	かかりつけ医への受診は家族対応となっておりますが、毎月1回の訪問診療を受けている利用者もおり必要に応じての歯科、皮膚科の往診、月2回の訪問看護により全員の健康管理が行われ適切な医療が受けられるよう支援し、利用者や家族の安心に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携訪問看護事業所の看護師・かかりつけ病院の看護師へ相談し連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には家族・関係機関との情報提供やケアについての話し合いを行い、医療機関との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	申込や契約時等その時々で早い段階から重度化や終末期のあり方について話し合いを行っている。	入居時に重度化した場合における対応及び看取りに関する指針により説明し、利用者、家族の思いや意向を確認して必要になった時には医師の協力を得て再度説明し同意を得て主治医、家族、事業所等と連携し看取り介護に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内外で急変や事故発生時に備えての検討や訓練を行うよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難誘導訓練の実施を行い、近隣にも協力を仰ぎ、体制を築いている。	年2回、夜間想定で火災避難訓練を実施しています。発電機やカセットガスストーブ等が準備されています。災害時における近隣住民の協力体制が出来ています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねなぬような言葉かけや対応に努めている。	利用者一人ひとりの尊厳や誇りを損ねず敬う気持ちを忘れず、信頼関係を築き相手の立場に立った声掛け、接し方を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表したり、自己決定できるような声かけや対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員優先ではなく、一人ひとりの生活スタイルやペースを大切に、希望に添うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理容や日常の化粧・更衣等希望に添い身だしなみやおしゃれができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を把握し、食事を楽しむことができるよう支援している。	利用者の好みを考慮しながら職員が献立を立て調理専門職員が調理を行っています。コロナ禍で外出などが出来ないことから、行事食や誕生日などは食事を楽しみにしている利用者の満足が得られるよう行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の把握を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため、一人ひとりに応じた口腔ケアに取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況の把握を行い、トイレでの排泄を原則として自立にむけた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄記録からパターンを把握し、時間や様子、仕草などを見極め声をかけ誘導で自立に向け取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の把握を行い、水分や食事にも留意し取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決めてしまっているが、一人ひとりに添った洗身洗髪等の入浴支援を行っている。	利用者の希望やその日の体調を考慮して週2回入浴しています。状態に応じて2人介助や清拭、同性介助での入浴を支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したり、安心して眠れるよう、一人ひとりに添い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用・用法や用量について、調剤薬局からの薬の情報を確認し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や残存能力を生かした支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望者が年々減少してきているが、希望にそい、戸外にでかけられるよう努めている。	現在は新型コロナウイルスの影響で外出は行われていませんが、天気の良い日には事業所前での外気浴等で気分転換を図っています。現在は室内でゲームや体操のビデオを見て体を動かす様にしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状としては金銭管理ができないこともあり入居された方々がほぼ全員ではあるが、お金を所持する機会があれば、使えるよう支援に努める。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの力に応じ支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節の飾りつけを行ったり、四季を感じ心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間の玄関に透明ビニールシートでゾーニングをして感染対策に取り組んでいます。季節を感じる大切さを考え年中行事の食事や飾りつけを行い季節の移ろいを五感で感じて貰えるよう取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが思い思いに過ごせるような居場所の工夫を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用前からご自宅等で使用していたものをお持ちいただき、本人らしく心地よい生活が送れるよう工夫している。	居室はカウンターやクローゼットが設置され、使い慣れた家具が配置されています。本を読んだりソックスを編んだりとその人らしく過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、できることを生かして生活が送れるよう工夫している。		